

神戸だより

台湾交流支援の会 2019.10発行 Vol.23

＜大震災で結ばれた台湾と神戸の絆＞ 能勢均

1995年の阪神・淡路大震災の被災地・神戸と1999年の台湾中部大地震の被災地・台湾南投県桃米村の方々と交流を続ける神戸市民に関する記事やテレビ報道をご紹介します。

1. 2019年9月17日(火) 神戸新聞朝刊(要約)

台湾中部大地震から21日で20年になるのを機に、被災地の南投県桃米村で開かれる追悼行事に、阪神・淡路大震災犠牲者を追悼する神戸・東遊園地のガス灯「1・17希望の灯り」が分灯されることになりました。

灯りが海外へ渡るのは初めてで、村では常設することも検討されています。震災をきっかけに復興支援でつながった神戸と台湾の市民交流に、新たなシンボルが加わることとなります。

台湾中部大地震発生直後から、復興途上だった神戸からも多くの市民が駆け付け、まちづくりなど長期にわたる支援に取り組みました。また2005年には、阪神・淡路大震災で焼失した神戸市長田区のカトリック鷹取教会跡に建てられた紙の建築物「ペーパードーム」の移設を台湾の被災者代表が受け入れを表明しました。神戸側は移送費用を負担し、08年に桃米村に完成。現在は音楽会や講演などで年間20万人が利用する場となり、両被災地の交流が深まりました。



＜2019年9月17日神戸新聞の記事の一部＞

ペーパードームなどで開かれる追悼式には、神戸から関係者ら30人以上が

参加します。台湾支援に関わってきた「被災地市民交流会」のメンバーの一人は「阪神・淡路で台湾から多くの支援をいただいたことを忘れない。台湾では復興に向かって進む人たちからいつも熱意をもらい、それが次の交流へのエネルギーとなった。今後も神戸らしい交流の形を示したい」と話しています。

2. 2019年9月26日(木) 毎日新聞朝刊(要約)

阪神大震災の記憶継承に取り組む神戸市のNPO法人「阪神大震災1・17希望の灯り」は24日、台湾中部大地震の被災地に追悼のガス灯を設置するため協力していくと発表しました。桃米地区に1年以内に設ける予定です。



3. 2019年9月25日15:30から読売テレビ放送

＜9月21日に行われた「ペーパードーム」での追悼ミサ。＞



神戸から出席したカトリック鷹取教会 神田神父のあいさつ



桃米村に設置された「ペーパードーム」。桃米村では「紙経堂」と呼ばれている

< 運動会 > 小林 美津子

今回は運動会「校慶活動運動会」について台湾と日本の違いを紹介します。

日本では、春や秋に各学校行事の運動会を開催します。 ブラスバンド部などが音楽を演奏する中、生徒たちが規則正しい行進をしながら入場するのが一般的です。みんなで一緒に一つの競技を見て応援するのです。ここが台湾との違いでしょうか？

プログラム

I 開会式

- ・優勝トロフィー・準優勝盾返還
- ・学校長の話
- ・児童代表のこぼ
- ・応援団長の選手宣誓



II 演技

- ① 全校生 はじめの体操「ラジオ体操」
- ② 1・2年生 団体演技(緑と紺のボンボン飾りをつけてダンス)
「たんじょう!ぼくらの地球」
- ③ 3・4年生 団体競技(黒い法被(はっぴ)に青・黄・赤の鉢巻で日本民謡踊り) 「ソーラン節」*各小学校規定
- ④ 5・6年生 組体操 震災テーマ音楽「花は咲く」に合わせ祈りをこめて
- ⑤ 応援団 応援合戦
(旗を先頭に紅白の鉢巻と軍手をして太鼓に合わせ三・三・七拍子)
- ⑥ 1年生 玉入れ
- ⑦ 2年生 大玉ころがし
- ⑧ 3年生 棒引き
- ⑨ 4年生 綱引き
- ⑩ 5・6年生 騎馬戦
- ⑪ 全校生・PTA 大玉おくり



昼休み

午後 の 部

- ⑫ 1・2年生 かけっこ
- ⑬ 3年生 徒競走
- ⑭ 4年生 リレー
- ⑮ 5年生 リレー
- ⑯ 6年生 リレー



III 開会式

- ・成績発表と表彰
- ・学校長の話
- ・児童代表のこぼ



運動会も昨今は様変わりして今は運動場の父兄観覧席はまるでキャンプ場かと見間違う程のテントがいっぱい張られ、その中から覗いてる人もいます。

私達のこどもの頃は熱中症や日焼けの心配もなく、毎年の運動会を楽しみにゴザを敷いて手づくり弁当を囲み家族一団になって応援しましたが、今は児童の演技を見守るという趣旨からビデオ禁止になり写真撮影も顔や学校は写せません。これはネットに上げられるおそれがあるためです。

競技中も教師は事故が無いよう細心の注意を払って見守っています。

そしてボランティア、保護者の協力を得て運動会の運営が成り立っています。